

第64回東日本実業団陸上競技選手権大会

【出場結果】

実施日 : 5月14日(土) 10000m

5月15日(日) 5000m

会場 : 山形県総合運動公園陸上競技場 (ND ソフトスタジアム山形)

出場者 : 親崎 達朗 西沢 晃祐 田中 龍誠 坪井 響己

出場種目・出場者・リザルト

氏名	坪井	親崎	西沢	田中	坪井	親崎
種目	10000m	10000m	5000m	5000m	5000m	5000m
組	1組	1組	1組	1組	2組	2組
タイム	30'39"	30'06"	15'28"	14'35"	14'52"	14'46"
順位	12/19位	10/19位	20/30位	7/30位	24/29位	22/29位

【レポート】

ここ数年、埼玉県熊谷市で開催されることが定番となっていた東日本実業団陸上競技選手権大会が久しぶりに山形県天童市で地方開催され、10000mに親崎、坪井の2名、5000mに親崎、西沢、田中、坪井の4名が出場しました。

初日の10000m 1組目には親崎、坪井が出場し、時折突風が吹きつける強風の中でのスタートとなったため、各選手ともに自嘲気味のペースでレースが進みました。

5000mを14分59秒台で通過するまでは親崎、坪井ともに先頭集団でレースを進める良い展開でしたが、6000m手前で坪井が集団から離れ出すと、親崎も7000m手前で集団から離れてしまい、以後2名とも単独走になる中、必死に脚を前に進めました。

結果、終盤ペースを盛り返した親崎は30分06秒台でゴール、坪井は30分39秒台でゴールしました。



親崎、坪井ともに中盤まではしっかりと先頭集団でレースを進める

強風の中、難しいコンディションでのレースとなりましたが、2名とも大きく崩れることなく走り切れており、翌日の5000mの走りに期待が持てる、まずまずの結果となりました。



集団から離れた後もしっかりとペースを刻んだ親崎



終盤の苦しい場面でも必死にゴールを目指す坪井

翌日の5000m1組目には西沢、田中、2組目には2日連続のレースとなる親崎、坪井が出場しました。

まず、1組目を走る西沢は1年振りのトラックレースとなり、ここ最近調子を上げてきた田中は自己記録の更新を目標にスタートしました。

先頭集団が 1000m を 2 分 52 秒台で通過し、記録を狙うには絶好のペースとなりましたが、2 名とも集団の後方でレースを進めていたため、集団が崩れ始めると先頭集団からは少し距離が空く展開となりました。



田中は先頭集団から離れたものの、単独走の中でもしっかりとラップを刻み、前から落ちてくる選手を次々と抜き、組 7 位の 14 分 35 秒台でのゴールとなりました。自己記録更新とはなりませんでしたが、しっかりと地力が付いてきていることが確認でき、収穫のあるレースとなりました。



後半も安定感のある走りを見せた田中

久しぶりのレースとなった西沢は 2000m以降大きくペースを落とし、15分28秒台でゴールしました。今回は1年振りのトラックレースとなり、本来の走りからは程遠いものとなりましたが、次戦以降はしっかりとコンディションを仕上げ、レースに臨んでくれることを期待したいと思います。



久しぶりのトラックレースに挑む西沢

続いて2組目には親崎、坪井が出場し、2名とも前日の10000mの疲労が残る中で、どれだけ粘って走れるかをテーマとしてレースに臨みました。



集中力を高めてスタートを待つ親崎

先頭集団が 1000mを 2分 45 分台で通過するハイペースの中、親崎、坪井ともに集団最後尾で付いていくのが精一杯となり、序盤の 2000m手前で集団から離れる苦しい展開となりました。



予想以上のハイペースで序盤から我慢比べのレースに

序盤から身体が固まってしまい、中盤以降も苦しい展開となりましたが、最後まで必死に身体を前に進め、親崎が 14 分 46 秒台でのゴール、坪井が 14 分 52 秒台でのゴールとなりました。



ハイペースの展開に必死に挑む親崎



苦しい場面も必死に粘る坪井

【総括】

今回はチームとして貴重な遠征試合でしたが、2日間とも強風が吹く難しいコンディションのレースとなり、残念ながら自己記録を更新する選手は出ませんでした。

際立った結果は残せませんでした。11月の東日本実業団対抗駅伝競走大会で戦うチームの選手達とのレースを経験でき、各選手とも次に向けての課題を洗い出すことができました。

今回出場できなかった選手を含め、各選手が今ある課題をしっかりとクリアして、チーム総合力を高めていけるよう、日々の練習に励んで参ります。

今後とも皆様の温かいご声援をお願い致します。

以上